

し差別知は此を捕捉することが出来ない。捕捉し得るものは Objekt であり不自由である故に。然るに實在は Subjekt-Objekt であり自由である故に。前後と云ひ時間と云ふ、其は皆 Objekt を容れる器に過ぎない。前後と云つた時 Subjekt-Objekt は脱落して只 Objekt が残る計である。我々は諸の世界の先驗的觀念性を明にし、絶えず其等の實在への要求を否定し、其等が具體的實在の一面的抽象なることを證すると共に、眞に無限永遠なる實在を意識の眞面目に觀なければならぬ。第一アンチノミーの徹底は此を要求する。

(I) Kant, *Grundlegung zur Metaphysik der Sitten* S. 80

彙

報

退職せられたる本會委員

先に本會委員たる京都帝國大學教授文學博士狩野直喜氏及び同じく本會委員にして京都帝國大學教授文學博士西田幾多郎氏が華甲の壽に達せられ教授の職を退かれたので、本會の規約に従ひ、遺憾ながら、昨年本會の委員を辭せられる事となつたが、今回また京都帝國大學教授文學博士高瀬武次郎氏も昨年十二月を以て還暦の壽に達せられ、教授の職を退かれることゝなつたので、残念ながら近く本會委員の職を辭せられることゝなつた。

狩野、西田博士は委員御在職中、深厚なる御盡力を本會の爲に致されたのみならず、委員を辭せられた後も、本會の爲に間接に種々御援助を與へていたゞいてゐるのは本會として、實に感謝の辭さへない位であるが、高瀬博士に對しては委員御在職中に本會の爲に盡して下さつた多大の御功績

に對し深く感謝の意を表すると共に、將來永く本會の爲に間接にお盡し下されんことを特に願ひする次第である。

學 會 記 事

心理學讀書會

去る一月十七日木曜午後三時半より心理學演習室にて左の講演があつた。

リボーの感情論理に就て

安宅 孝治氏

一月二十四日木曜午後四時より同演習室で左の講演があつた。

想 像 論

瀨高 德乘氏

二月七日木曜午後四時より同演習室で左の講演があつた。

ゼームス・ラング説について

田寺 篤雄氏

社會學讀書會

二月六日水曜午後七時より樂友會館で左の講演を聴く。

トレルチの辨證法批判

野淵 忠雄氏

印度哲學會

二月九日土曜本學學生集會所に於て午後六時半より次の講演を聴く。

ウパニシャッドに現れたる梵我一如の思想に就て

支那學會

大谷大學教授 藤井 默慧氏

二月九日土曜午後三時より學生集會所に於て京都帝國大學文學博士高瀬武次郎氏送別を兼ねて左の講演會を開く。

大學 篇 攻

村上 德美氏

文選の編者について

高尾 豐吉氏

教育研究會

二月二日土曜午後三時より學生集會所に於て、臺北帝國大學教授伊藤鐵典氏が在外研究を終へて歸朝されたのを歡迎しかつ氏の滞歐米中の見聞談を聞いた。引續き同所で、有志が相集つて、歡迎の晚餐會を開いた。

日本心理學會第二回大會

日本心理學會第二回大會は本年四月三、四、五日に互り京都帝大に於て開催される。松本亦太郎、狩野直喜、足立文太郎諸博士の特別講演の他全國各大學其他よりの研究發表の申込は既に百に近く當日の盛觀は蓋し期して待つべきものがあると思はれる。

哲學研究 第百五十六號

寄贈圖書

(昭和四年二月)

西洋哲學史 第一卷

出隆著
東京啓明社

二、五〇圓

思想と信仰

島地大等著
東京明治書院

三、五〇圓

支那政教夜話 上

(金鶏文藝第八)

赤池濃著
東京金鶏書院

寄贈雜誌新聞

(昭和四年一月二月)

哲學研究

昭和四年二月號

五〇四號

丁酉倫理會講演集

同 二月號

三一六輯

哲學青年

同 一月號

二卷三號

理想

同 一月號

二年四號

學校教育

同 二月號

(學藝會號)

一八八號

東亞之光

同 一月號

二四卷一號

教育心理研究

同 二月號

四卷二號

國史と國文

同 一月號

四七號

奈良縣教育

同 一月號

一八九號

靜岡縣教育

同 一月號

三八一號

根源

昭和三年十二月號

四號

一一八

社會學徒

昭和四年二月號

三卷二號

全集人

同 二月號

三一號

帝都教育

同 二月號

二八七號

信濃教育

同 二月號

五〇八號

眞宗研究

同 二月號

八六號

帝國大學新聞

昭和四年一月廿一日、廿八日、
二月四日、十一日、十八日

二〇號